

高知県の海水魚類

【現 状】

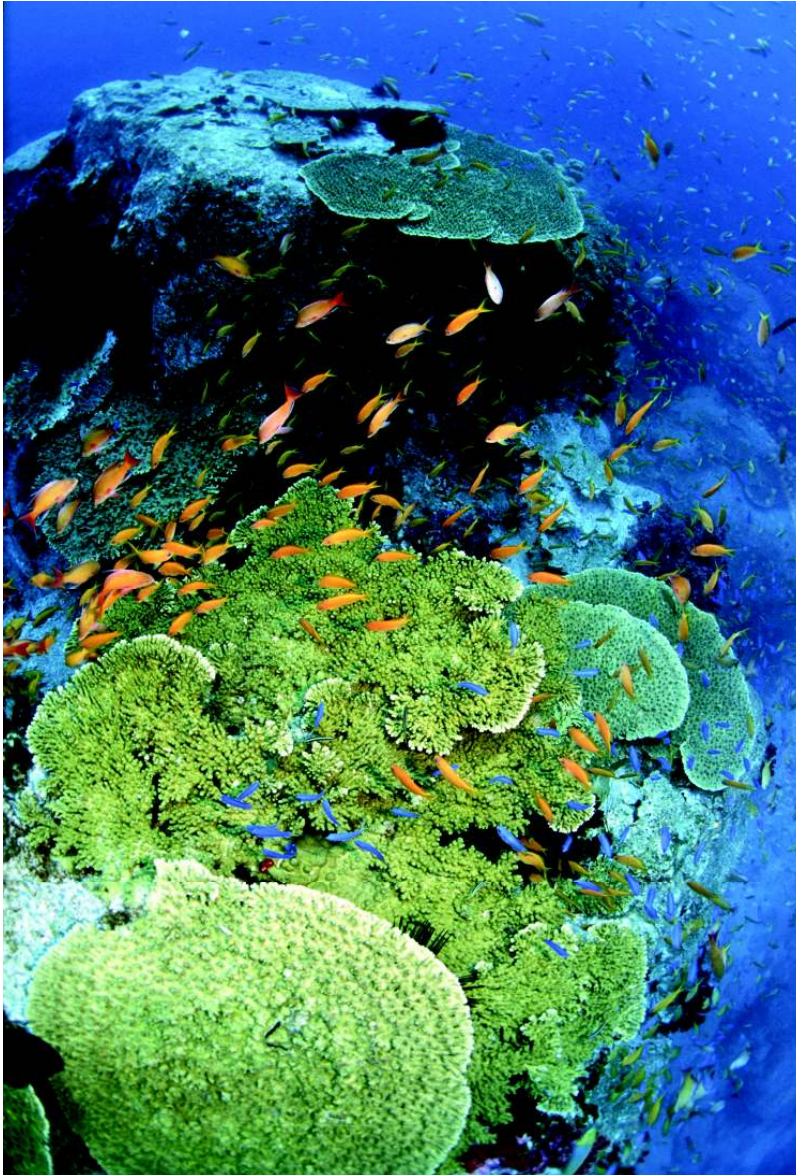


写真1. 大月町柏島後の浜で撮影されたキンギョハナダイの群れ

高知県の河川や海で記録された魚類は、近い将来には2,000種に達する予想です。これは日本産魚類の半数近くにあたり、驚くべき数字です。高知県には新種や日本から報告のない種の存在が知られています。そのおよそ95%は海水魚で、研究が進めば種数が増えることは確実です。

高知県の海には、汽水域や干潟をもつ四万十川や浦戸湾、造礁サンゴ群落が発達する西南部沿岸、そして土佐湾の大陸棚から深海域など多様な環境があります。また、海洋気候区分の境界に位置するため、温帯と熱帯から亜熱帯に分布する種が混在します。とくに、黒潮の影響を強く受け、南の海にすむ魚の卵や子供が流れ着くことも魚種が豊富な要因です。さらに、魚類分類学や魚類相の研究が古くから多く行われてきたことは、記録された種数の多さにつながっています。

【変 化】

蒲原稔治博士は、1928年に旧制高知高等学校（現、高知大学）に着任し、高知県の魚類の分類や魚類相に関する調査を開始しました。その後、1964年に高知県産魚類1,234種をリストにまとめました。その後、2002年の高知県レッドデータブックでは高知県産魚類を約1,500種と予想していますが、1964年以降に高知県の全魚類を扱ったリストの改訂版は出版されていません。

蒲原博士は 1929 年から高知県西南部の
柏島かしわじまと沖の島あしずり、足摺地方沿岸の魚類の調査を
開始しています。1960 年の研究報告では、
西南部沿岸の魚類を約 600 種としました。そ
の後、1969 年以降に柏島周辺では漁獲物や
釣りでの採集、1980 年代からはスクーバ潜水せんすい
による調査が行われ、1996 年には 143 科
884 種がリストにまとめられました。研究中
の未発表の種を含めると、およそ 1,000 種が
生息するとされました。1996 年以降も柏島
で採集された標本により新種や初記録種が発



写真 2. 大月町柏島で撮影されたマトウダイ

表され続けています。1998 年から 3 年間にわたり土佐清水市いぶり以布利ぎよるいそでの魚類相調査が行われ、その
成果に基づき出版された「以布利黒潮の魚」では、定置網や釣り、タイドプールでの標本採集、スク
ーバ潜水による観察で 136 科 576 種が記録されました。

土佐湾の底魚類の調査は蒲原稔治博士により開始され、高知市御豊瀬魚市場みませの沖合底曳き網漁おきあいそびきあみりょうの漁
獲物を中心に新種や日本初記録の種が数多く報告されてきました。2001 年にまとめられた研究報告
のリストには、土佐湾の水深 100 から 1,000 メートル間で記録のある 140 科 599 種が掲載され
ています。また、2003 年に報告された土佐湾西部の小型底びき網漁の漁獲物と過去の標本調査では、
須崎沖の水深 30 から 80 メートルにおいて 82 科 187 種が、西部全体では 350 種が確認されてい
ます。

これらの魚類リストによる記録と最近の研究論文、私たちの研究室が採集した標本を集計したとこ
ろ、高知県産魚類の総数は、およそ 1,930 種となりました（未発表）。蒲原博士の 1964 年の魚類リ
ストから、46 年間で約 700 種が増えたこととなります。また、現在研究が進められている 70 種ほ
どを加えると、高知県産魚類はちょうど 2,000 種を超えます。

【人との関わり】

1950 年代から 1970 年代始めまで、高知市内の製紙工場せいしこうじょうから流出したパルプ廃液はいえきによる水質汚
染で、浦戸湾内の魚類はほとんどいなくなりました。それ以前の魚類相は大変豊富で、蒲原博士の
1958 年の報告では 194 種とされています。2009 年の高知市総合調査の研究報告では、77 科 187
種が記録され、浦戸湾内の環境がかなり改善かいぜんされたことがわかりました。また、高知県の汽水域を代
表する魚類のアカメは、最近では生息数が思いのほか多いと予想され、その生態の調査は様々な研究
方法により進められています。

漁業や人間の活動に関係した沿岸水えんがんすいの汚染や長期的な気候の変動は、魚類の生息せいそくや分布ぶんぷに影響しま
す。しかし、河川かせんや湖沼こしやう、浦戸湾のような閉鎖的な内湾の環境と比べると、広い海にすむ魚類につい
て、それらの正確な種数や分布、ある地域での絶滅ぜつめつを知ることは大変難しいでしょう。高知県の海水
魚に関しては、まだ多様性たようせい解明の途上とじやうにあるといえます。